

会 議 録

会議の名称	令和4年度第7回富士見市社会教育委員会議
開催日時	令和5年1月30日（月）午後7時00分～8時30分
開催場所	中央図書館 視聴覚ホール
出席者	古澤立巳議長、佐々木眞理子副議長、荒川照子委員、京谷恵子委員、吉田徹子委員、渡邊知広委員、吉田和江委員、内海幸一郎委員、富士伸委員、事務局
欠席者	蘇武伸吾委員
公開・非公開	公開（傍聴人 0人）
会議次第	1 議長あいさつ 2 協議事項 3 その他
会議資料	・定期刊行物 ・資料1「提言書（案）」
会議録確認	古澤立巳議長

会議内容

1 議長あいさつ

【議長】 令和5年初めての社会教育委員会議となる。前回の会議でご指摘いただいた点について修正した提言書案を、事務局から配布させていただいている。引き続きみなさんにご協力いただきながら、議論を進めていきたい。

2 協議事項

【議長】 本日の流れを確認する。目次を確認いただきたい。6つの項目立てとなっている。今日は「1 はじめに」と「2 富士見市の現状」について、内容や文言等ご確認いただきたい。また「3 『つながり』の大切さについて」と「4 提案『様々な世代を包む、ゆるやかな関係づくり』」については、今日みなさんから意見等いただいて修正し、再度次回会議で確認していただく予定である。「5 具体的な取組の提案」については、次回の会議までにみなさんに意見やアイデアをお示しいただきたいと考えている。では、事務局から資料の説明を。

【事務局】 「1 はじめに」では、問題意識として担い手の確保があるように見えてしまう、というご指摘を受け修正した。「2 富士見市の現状」について、「3 『つながり』の大切さについて」より前に記載した方がいいというご意見を受け、構成を改めた。また取り上げているアンケートについても、ご指摘の通り令和元年実施のものを先に掲出し、令和2年実施のものを後とした。また議長との事前打合せの際にいただいたご指摘として、一文が長いというものがある。分かりにくい文章等ないかご確認いただきたい。前回の会議でいただいた、他者とつながることを強制するような内容にならないように、というご指摘については、「2 富士見市の現状」の後半で取り入れるようにした。

【議長】 前回の会議で事務局から示されたものはである調だったが、事務局との事前打合せにて協議し、です・ます調に変更した。では、まず「1 はじめに」について、各委員からご意見を伺いたい。

【委員】 意見なし

【議長】 この形で進めさせていただく。今後またお気づきの点があればご指摘いただきたい。では次に「2 富士見市の現状」について、ご意見を伺いたい。

【委員】 1行目の後半「また若手人材の確保が～」の文章について、「若手人材の確保が多い」という意味に取り違えられないか。「若手人材の確保の困難性が多く指摘されている」などの表現にした方がよいのではないか。また細かい話だが、3ページ目の最後で2桁の数字が4ページ目にまたがってしまっているのを修正してほしい。

【事務局】 ご指摘の通り修正する。

【委員】 1行目の後半「また若手人材の確保が～」の文章について、私も違和感を覚えた。参加者の固定化、高齢化ときて、「また」で「若手人材の確保」

につなげているが、なにか意図があるのか。ないのであれば「等」でまとめられてしまってもよいのではないか。

【事務局】 分かりにくい表現になっていた。修正する。

【委員】 4ページ目の円グラフの下、「生涯学習活動とは～」から「社会教育の観点から、対策を考える必要があります」までの文章について、表現が気になる。「つながりは不要と考えている人しかいないのであれば～」の部分などは特に高圧的に感じる。自身が行っている生涯学習活動の成果を社会の中で生かすことや、他者との係わりを受け入れることなど、他者とのやりとりがいかに重要であるかということは、私たち社会教育委員は実際に自分たちが経験してきているので、よく分かっている。その点を提言書の中で示すことはいいが、「個人の生涯学習活動で納得している人はそれでいいです」と取られかねない表現は避けるべきだと考える。

【事務局】 ここは事務局としても表現に悩み苦慮した部分。前回の会議で委員からいただいた、「一人で行う生涯学習活動を否定するものにならないように」、「つながりを強制するような表現にならないように」というご意見を反映しようとした結果、この表現になった。

【委員】 個人で行う生涯学習活動について、あえて触れなくてもいいのではないか。個人で行う生涯学習活動より、他者とつながりあう活動の方がいい、と取られかねない。そうではなく、他者とつながることで、こういうメリットがありますよ、という見せ方で良いのではないか。もしくは意図が誤解されないよう表現を変更するか、この「2 富士見市の現状」ではなく、もっと後半の方で触れる、というのも方法として考えられると思う。

【議長】 提言書全体の雰囲気として、「他者とつながることにはこんなメリットがありますよ」と呼びかけるような雰囲気になるといいのではないか。また委員ご指摘の通り、ここはあくまで富士見市の現状を述べる部分なので、現状以外のことは別の場所で述べた方が良いのではないか。

【委員】 4ページ目のグラフで示されているアンケート結果について、設問に対して「わからない」と回答した人が、「感じている・やや感じている」と回答した人、「あまり感じていない・感じていない」と回答した人たちとほぼ同数になっている。この「わからない」と回答する人が多いということも問題だと考える。この点についてきちんと問題提起することもいいのでは。

【事務局】 ご指摘の通りと考える。問題提起しているということが伝わるよう、文章化する。

【委員】 「人と人とのつながり中でこそ得られるものもある」という部分についてはその通りだと思う。この文が、この後の内容につながっていく部分だと思う。しかし他の委員からご指摘があった通り、円グラフの下の文章については、私も表現を工夫したほうがよいと考える。話は戻るが、先程委員から指摘があった「2 富士見市の現状」の最初の文について、若手人材の確保に焦点を当てたいから「また」でつながっているのだと推察した。この後の構成を見ると、若い世代とその上の世代をどうつなげていくか、ということが重要な問題で、この世代が子育て世代であるな

らば、子どもを介してつながりを築いていく方法もあるのではないかと提案していく。やはり、若手人材の確保、ここに意識を持たせていきたいのだろうなと思って読んだ。しかしこの点は多く指摘されていることであり、読む側にとっては面白みがなく、ここで読むことをやめてしまう人も出てしまうのではないかと。また4ページ目の円グラフの下の文章については、他の委員から表現が気になると指摘があったように、人によっては不快に感じる可能性もあり、またここでも読むことをやめてしまう人が出る可能性がある。他者とのつながりを感じているかという質問に対して「わからない」と回答している人が多いという現状なのであれば、人とのつながり方は様々であり、またつながる強度というものも様々である、ということを示す。そして、そのつながりの方法や強度は様々だ、とはどういうことか。そのような展開にした方が、興味を持ってもらえるのではないかと。そもそも、「生涯学習なんて考えたこともなかった」、「富士見市に住んでいるけど、人とつながるってどういうことだろう」といった、今後自分自身の生活に何らかのよい変化をもたらしてくれるという期待感を持ってもらって、それから具体的な話を始めた方がいいのではないだろうか。

【事務局】 論の展開について、修正する。

【議長】 今までいただいたご指摘について確認する。1点目、「2 富士見市の現状」の最初の1文について。2点目、4ページ目円グラフ下の文章について。この2点については、次回会議にて再度みなさんにご確認いただけるよう修正する。では次に「3 『つながり』の大切さについて」と「4 提案『様々な世代を包む、ゆるやかな関係づくり』」について、文章や展開等お気付きの点があればご指摘いただきたい。「3 『つながり』の大切さについて」については、前回会議の時点では「自己成長」、「他者との相互作用」、「地域づくり」の3つの観点で整理していた。事務局との事前打合せで検討した結果、「地域づくり」についてはここで触れる必要はないのではと考え、削除した。

【委員】 「地域づくり」の観点があった方がよかったように感じる。「3-1 2つの観点から見る『つながり』の必要性」冒頭の文について、この内容を3つ目の観点として入れられないか。自分の成長、自分と他人の成長、そしてそれが地域になり、居場所になる、という考え方で、つながりがなぜ必要なのか、わかりやすかったと思う。人とつながりを築くことで、居心地のいい居場所ができるという論の展開で考えられないか。今の構成だと、「居場所」の話がどこにもリンクしていないように感じる。自分が育って、周りが育って、いろいろな交流がある中で、居場所ができる、という順番ではないか。他者と関わることで居場所ができるのではないかと。

【委員】 この提言書は誰に向けて作成しているものなのか、確認しておきたい。社会教育に興味関心の高い人たちであれば読んでもらえると思うが、興味関心が薄い人に向けているのであれば、恐らく伝わりにくい内容になっているように感じる。また教育委員会に向けての提言書なのであれば、文言の体裁や表現方法等が適切でないように感じる。対象は誰なのか、

明確に意識しておかないとまとめる時に難しいと思う。私は教育委員会に向けての提言書だという理解だった。少なくとも一般市民向けではない。したがって読者が脱落するという事はあると考える。

【事務局】 提言書は教育委員会に提出するもの。ただし、ホームページ上でも公開するので、一般市民にも読まれるという事は意識している。

【委員】 公開することで期待する効果というのは、読んだ人に対して、社会教育や生涯学習を通して他者とのつながりを形成することについて意識してもらうこと、気付きのきっかけを与えるといったところか。

【事務局】 全く興味がない人に読んでもらう、理解してもらおうということは難しいと考えている。興味関心のある人たちや社会教育行政担当者に対して、つながりというのは強制力のあるものではなく、時代に合わせた様々なあり方があっていいのではないかと提案することができればと考えている。

【議長】 社会教育に携わっている人、生涯学習活動に取り組んでいる人たちに対するメッセージという理解でいいのではないかと。

【委員】 提言書で、大切だと主張している部分について、理由を明確にしないまま先に進んでしまっているような感じがする。他者とのつながりは大切だ、ということ、納得しながら読み進んでもらえるような構成になっているかということ、残念ながらそのような構成にはなっていないと思う。

【事務局】 つながりが大切だと述べている理由が明確に示されていないということか。

【委員】 私たちは数カ月かけて話し合ってきたので理解できるが、議論に参加していない人たちにとっては、難しいのではないかと。もう少し文字数を費やさないと、理解してもらえないのではないかと。

【議長】 私は逆に、書きすぎてしまうとこちらの意図へ誘導していくような雰囲気になってしまうのではないかと。ある程度含みを持たせた文章の方がいいのではないかと。この点については、委員のご指摘も踏まえて引き続き検討していく必要がある。「4 提案『様々な世代を包む、ゆるやかな関係づくり』」についてご意見を伺いたい。これまでの会議で委員各位から様々な意見をいただいた。そこから帰結したのが、ここに書かれた、ゆるやかな関係づくり。ここについてはどうか。文言、また3つの項目立てをしているが、この整理の仕方についてもご意見があれば伺いたい。

【委員】 含みを持たせた形でまとめる、という方向でいくのであれば、上手くまとまるのではないかと。人と人とのつながりの中でこそ得られるものがある、と言われると、縛り付けられるのではないかと不安を感じなくもない。しかし、強制力のあるつながりではなく、ゆるやかなつながりというものを考えていくんですよ、ということであれば、目が向くのではないかと。論が上手くつながっていると思う。ちなみに、この提言書はホームページにもアップされるとのことだが、より市民の人に伝わりやすいように、その提言を受けて、教育委員会としてこう考えている、と再度発信していくことは可能なのか。同じ文章で教育委員会にも、市民にも、両方に伝えようというのは無理があって、この文章の雰囲気から、私は一般の市民も読むものだとして解釈していた。広く一般市

民、ではなく、限定された人たちに届けばいい、ということであれば、書き方は変える必要があるかと思う。

【事務局】 今までそういった形で再発信をしたことはないが、上席と相談させていただきたい。

【委員】 文章を書くという事は、相手意識が重要。相手を誰とイメージして、どのようにまとめていくか、大事なことである。教育委員会であれば教育委員会に向けた話をしていくのであろうし、ただ、それをホームページにアップした時に、一般市民が読むに堪えうるものにしようとすると、方向付けるのが難しい。私は最終的に市民が読むものだと思って読んでいた。一般市民が読むという事を意識して書かれているんだろうなと思いつながりながら読んでいた。難しい部分ではあるが、大事な事かと思う。

【事務局】 教育委員会にご提出いただくものではあるが、一般市民の方も読むものなので、読者として一般市民は意識していただいた方がいいかもしれない。

【委員】 たとえば7ページ目の上から10行目から11行目にかけての文章は、はっきり行政に向けた提案になっている。書かれていることはとてもいいことなので、市民向けの部分、行政向けの部分、となつていてもいいのかもしれない。行政にはこういうことをお願いしたい、市民にはこう考えでやってもらいたい、という、それぞれのところでターゲットを明確にして記述していくのも1つ方法として考えられるかもしれない。

【委員】 内容について、これまで話し合ってきたことが取り入れられていると思う。

【委員】 私もこれまでの内容が良くまとめられていると思った。その人が今一番興味のある事に関して、情報がしっかり入ってくることが重要だと思う。

【委員】 私もよくまとまっていると思う。行政の方に対しては、こういう見方もあるのかと気付いてもらえる部分もあれば、市民の方に対して呼びかける部分もある。なるべく多くの方に、地域で、学校で、この会議で議論したことが伝われば、やったかいがあったのかなと思う。

【議長】 みなさんから頂いたご指摘をもとに、また次回の会議までに検討して修正したものをご提示できればと思う。最後に「5 具体的な取組の提案」について、事務局から説明を。

【事務局】 「5 具体的な取組の提案」については、例えば各委員がそれぞれの活動の中で、ゆるやかなつながりが築けていると感じた取組や、ここをもっとこうすればよかったのではないかと気づいた取組や活動など、ご意見をいただいた上で作成する予定。いいなと思った活動や取組、もっとこうすればよかったのでは、と思った活動や取組をお示しいただきたい。

【議長】 「様々な世代を包む、ゆるやかな関係づくり」、この1文を意識しながら、どんなことがあるのか、できるのか、またはできたらいいのか、委員各位に1例か2例でいいのでお話しいただきたい。

【事務局】 事前に事務局までご提出いただければ、資料として次回の会議でお示しすることはできる。

【議長】 では、3月1日までに委員各位、事務局まで報告をお願いしたい。

【委員】 確認したい。実在する好事例か、こうしたらいいのではないかとア

アイデアなのか、どちらを挙げればよいか。

【事務局】 可能であれば実在している例をお伺いしたい。

【委員】 市内団体であった方がよいか。他自治体の例でも構わないか。また団体名などは公開しないということでもいいか。

【議長】 問題ない。提言書としてまとめる際は、特定の団体名は出さない。また、お配りした提言書案の中には、事務局が考えた文言が入っているが、これに縛られる必要はない。

【事務局】 次回会議の流れについて。今日ご指摘いただいた箇所について事務局の方で修正していく。次回会議にて再度報告させていただくので、ご確認いただければ。また「5 具体的な取組の提案」について情報共有していただく。「6 おわりに」については、各委員から感想をいただいて掲載する予定なので、次回会議では扱わない予定。

【議長】 考えがまとまらない、難しい、ということであれば、当日会議の場でお話しただけだけでも構わないし、文章としてまとまらなければ、キーワードをご提示いただだけでも構わない。引き続きご協力をお願いしたい。

3 その他

【事務局】 令和4年分の源泉徴収票を送付させていただいた。後日お手元に届くと思うので、ご確認いただきたい。また先日ご案内させていただいた、入間地区生涯学習フォーラムが2月15日に開催される。お時間にご都合がつく委員には、ぜひご参加いただきたい。

次回会議日程

令和4年度第8回会議

日程：令和5年3月6日（月）午後7時～

場所：中央図書館 視聴覚ホール